

(11)Publication number : 05-022449
(43)Date of publication of application : 29.01.1993

H04M 3/50
H04M 3/42

(71)Applicant : NEC CORP
(72)Inventor : NINOHIRA MASASHI

[illegible]

[Date of request for examination]
[Date of sending the examiner's decision of rejection]
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-22449

(43)公開日 平成5年(1993)1月29日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 M 3/50
3/42

識別記号

B 9076-5K
S 9076-5K

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平3-176392

(22)出願日 平成3年(1991)7月17日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 仁ノ平 昌史

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式
会社内

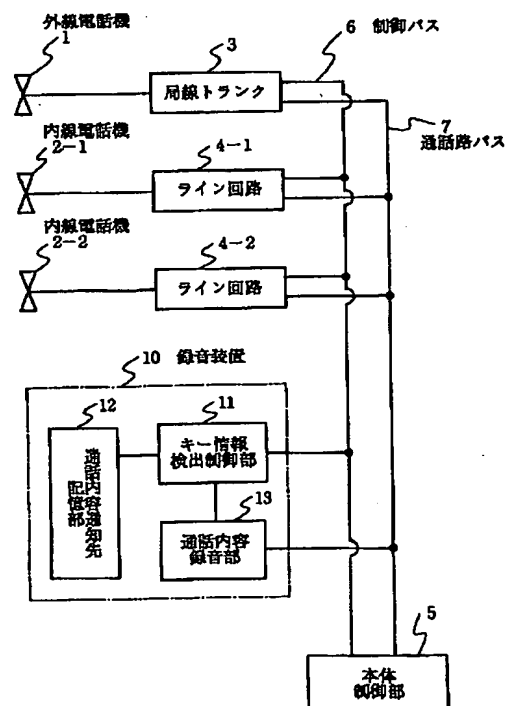
(74)代理人 弁理士 内原 晋

(54)【発明の名称】 通話録音方式

(57)【要約】 (修正有)

【構成】制御部5は、代行応答した代行応答者の端末から送出される通話内容録音要求情報を受信し、録音部13との間に通話録音バス7を設定する。キー情報検出制御部11は、代行応答者の端末からの通話内容通知先情報を識別し通話内容通知先記憶部12に記憶すると共に、代行応答者端末からの録音指示情報を識別し、通話内容通知先記憶部に記憶した不在者の通知先情報に対応して通話内容録音部13に通話内容を録音する。また、録音後不在者端末に不在者宛の伝言が録音されていることを表示すると共に、不在者端末からの要求により通話内容録音部に録音した発呼者と代行応答者との通話内容を再生する。

【効果】代行応答者と発呼者の通話内容を不在の被呼者の内線番号をアドレスとして録音し、被呼者の内線電話機に伝言が録音されていることを通知することにより、帰席後録音を再生して通話内容を聞き発呼者からの伝言を聞くことができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 不在者への着信呼に対し代行応答した際、発呼者から不在者への伝言を録音するために代行応答者の端末から送出される通話内容録音要求情報を受信し録音部との間に通話録音パスを設定する手段と、前記通話内容録音要求情報に続き前記代行応答者の端末から送出される通話内容通知先情報を識別し記憶する通知先情報記憶手段と、前記通話内容通知先情報に続いて前記代行応答者端末から送出する録音指示情報を識別し前記通知先情報記憶手段に記憶した前記不在者の通知先情報に対応して前記録音部に通話内容を録音する通話録音手段と、録音後前記不在者端末に不在者宛の伝言が録音されていることを示す録音通知情報を送出し表示する録音通知手段と、不在者端末からの要求により前記録音部に録音した前記発呼者と前記代行応答者との通話内容を再生する手段とを有することを特徴とする通話録音方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、交換装置の通話録音方式に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、用件者すなわち、発信者が電話をかけた時、被用件者すなわち着信者が不在等で直接その呼び出しに応えられなかった場合、着信者側内線加入者の応答には2つの方法があった。すなわち、発信者からの着信呼に対し、被用件者以外の第三者が応答し、発信者からの用件事項を聞き、被用件者へ伝言をメモ等で残す第1の方法と、被用件者の内線電話端末が、話中もしくは不在の時に、交換装置別体型の音声蓄積装置に着信先を変更し、発信者は被用件者専用割り当てられた音声蓄積エリアに伝言を残し、被用件者の内線電話端末に伝言がある旨の表示を行なう第2の方法があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の第1の方法では、例えば伝言を依頼された第三者はメモする煩わしさや手間がかかり、伝言連絡ミスが起きる可能性もあった。また、交換装置別体型の音声蓄積装置へ録音する第2の方法では、機械に対して一方的に伝言を残すものであり、発信者側で不快感を感じる場合もあるなど、発信者及び伝言等の依頼を受けた第三者へのサービスが欠けているといった欠点があった。

【0004】本発明の目的は、不在者への着信呼に対する代行応答者の要求でその通話内容を録音し、録音後不在者端末に伝言が録音されていることを表示し、不在者の要求で録音されている通話内容を再生する通話録音方式を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の通話録音方式は、不在者への着信呼に対し代行応答した際、発呼者から不在者への伝言を録音するために代行応答者の端末か

ら送出される通話内容録音要求情報を受信し録音部との間に通話録音パスを設定する手段と、前記通話内容録音要求情報に続き前記代行応答者の端末から送出される通話内容通知先情報を識別し記憶する通知先情報記憶手段と、前記通話内容通知先情報に続いて前記代行応答者端末から送出する録音指示情報を識別し前記通知先情報記憶手段に記憶した前記不在者の通知先情報に対応して前記録音部に通話内容を録音する通話録音手段と、録音後前記不在者端末に不在者宛の伝言が録音されていることを示す録音通知情報を送出し表示する録音通知手段と、不在者端末からの要求により前記録音部に録音した前記発呼者と前記代行応答者との通話内容を再生する手段とを有する。

【0006】

【実施例】次に、本発明について図面を参照して説明する。図1は通話録音要求者が通話録音を行なう場合の操作手順を示した図である。通話録音要求者が通話中（S1）に、その通話内容の録音を行う場合（S2）、通話している内線電話機に設けられた接続要求キーを押下（S3）し、通話内容録音部13との接続を要求する。録音した内容を他の第三者に伝える必要がある場合（S4）には、続けて第三者の内線番号をダイヤル（S5）し、録音開始キーを押下する（S6）ことにより録音される。他の第三者へ伝える必要のない場合（S4）は、そのまま録音開始キーを押下する（S6）ことによって、録音を開始される（S7）。なお、通話録音の終了は、通話録音要求者のオンフックによって録音状態が解除される。

【0007】図2は本発明の一実施例の機能ブロック単位で示した概略図である。ここでは外線電話機1から内線電話機2-2へ発呼した着信呼を内線電話機2-1の加入者が応答し、外線電話機1の発呼者から内線電話機2-2の被呼者への伝言を録音したのち、内線電話機2-2に伝言が録音されていることを通知する場合を例に説明する。

【0008】内線電話機2-1の加入者が応答し、被呼者である内線電話機2-2の加入者が不在等の場合、内線電話機2-1の加入者は発呼者から被呼者への伝言を録音すべく内線電話機2-1に設けられた接続要求キーを操作する。その接続要求情報は内線加入者回路4-1で接続要求信号として検出され、制御バス6を介して本体制御部5及び録音装置10のキー情報検出制御部11に送られる。接続要求信号を受けた本体制御部5は、通話路バス7を制御して内線電話機2-1と録音装置10の通話内容録音部13との間に通話録音の為のパスを設定する。

【0009】また、接続要求信号を受けた録音装置10のキー情報検出制御部11は、通話内容通知先記憶部12とそれに対応した通話内容録音部13を選択し、内線電話機2-1から続けて操作される通話内容通知先番号

すなわち内線電話機2-2の内線番号情報を、録音装置10のキー情報検出制御部11により識別し、その内線番号を通話内容通知先記憶部12に記憶させ、録音開始信号の受信待ち状態とする。内線電話機2-1の録音開始キーの操作により送出される録音開始信号をキー情報検出制御部11で受信すると、先に通話内容通知先記憶部12に記憶した内線電話機2-2の内線番号に対応した通話内容録音部13の記憶エリアに通話録音を行なう。通話録音の終了は、内線電話端末2-1のオンフック情報の検出・受信により、通話録音の停止及び通話路を切断して通話録音を終了させる。

【0010】上述のように通話録音が終了すると、録音装置10の通話内容通知先記憶部12に記憶された内線加入者2-2の内線番号が制御バス6を経由して通知先内線電話機2-2の加入者回路4-2に送られ、内線電話機2-2宛の伝言が録音されていることを内線電話機2-2に表示する。内線電話機2-2の被呼者は、後にその表示により自分宛の伝言があることを知り、内線電話機2-2から所定の操作により録音内容を再生して聞くことができる。内線電話機2-2の被呼者は再生された外線電話機1の発呼者と内線電話機2-1の加入者との通話内容を聞くことにより、発呼者からの伝言を知ることができる。上述では発呼者を外線電話機1の加入者として説明したが内線電話機同志であってもよい。

【0011】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、代行応答

者と発呼者の通話内容を不在の被呼者の内線番号をアドレスとして録音し、被呼者の内線電話機に伝言が録音されていることを通知することにより、帰席後録音を再生して通話内容を聞き発呼者からの伝言を聞くことができるため、伝言をその都度メモするわずらわしさや連絡ミスが防止でき、また発呼者および代行応答者は通話機能の中で伝言が伝えられるため違和感もなくサービス向上になる。

【図面の簡単な説明】

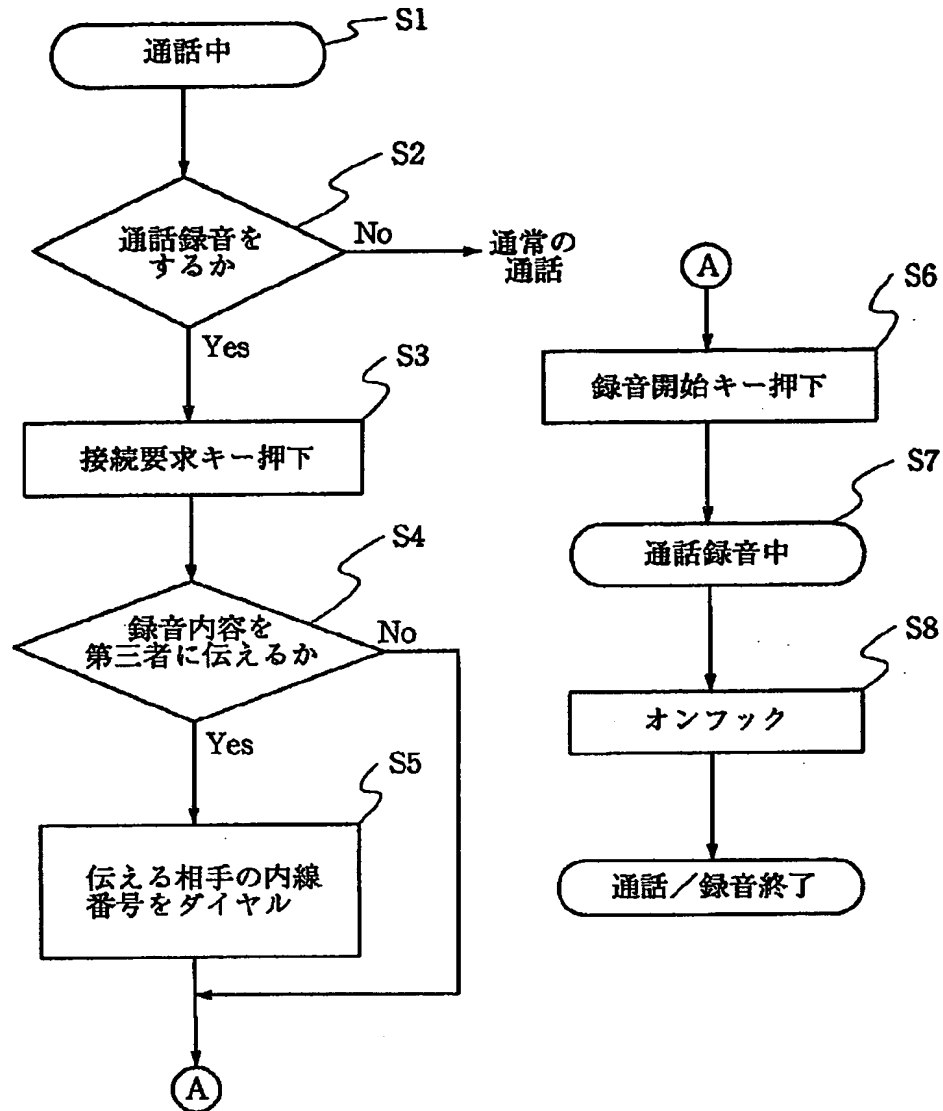
【図1】本発明の一実施例の動作を説明するためのフローチャートである。

【図2】本発明の一実施例の機能ブロック単位で示した概略図である。

【符号の説明】

- 1 外線電話機
- 2-1, 2-2 内線電話機
- 3 局線トランク回路
- 4-1, 4-2 ライン回路
- 5 本体制御部
- 6 制御バス
- 7 通話路バス
- 10 録音装置
- 11 キー情報検出制御部
- 12 通話内容通知先記憶部
- 13 通話内容録音部

【図1】



【図2】

